

雀

丸山弘子

先日、出先からの帰り道だった。電信柱の高いところ、トランスのあるあたりで、雀が何羽か騒いでいる。見上げると、巣があるのか何かをしきりに警戒している様子だ。きつと雛がかえっているのだろう。鳥が近くにいる様子でもないのだが、大騒ぎをしていた。

それからしばらくたったある日、面白いと言っては失礼だが、ふだん見かけない光景を目にした。これも雀のことである。

その日、弟の家を訪ねたのだが、ひとしきり話がすんで、二階の窓から見るともなく外の様子を眺めた。

前のマンションの角に電信柱があり、トランスがあり、その前に雀が二羽いる。これからペアになるうとしているのか、オスとメスに間違いない。二羽の間はちよつと距離があり、メスと思われる方の雀は、しきりに羽づくろいしている。オスを意識しているのだろう、かなり念入りである。オスの方は口いっぱい、ふわふわしているものを銜え、メスが気がついてくれるのをジッと待っている。察するに、このふわふわしたのは、近い将来メスがOKしてくれて、ペアに成功した時、巣の材料になるのだろう。

それにしてもオスはこれ以上アタックできないのか、とオスに同情した途端、メスが羽づくろいをやめ、飛びたってしまった。その時オスはどうするのかと思ったら、こちらも銜えていたふわふわしていたものをパツと捨てた。そしてメスを追いかけていったのかどうか、とりあえず同じ方向へ飛んでいってしまった。